

第1回学校評議員会 会議録

日 時：令和6年7月2日（火）14：00～15：00

場 所：男鹿工業高校 会議室

参加者：学校評議員

加賀谷正人様、菊地修様、石川敦様、畠山千夏子様、清水隆成様(欠席)
男鹿工業高校
筒井勝校長、柴田修教頭、木村哲也事務長、宇佐美晋哉総務主任

司 会：男鹿工業高校 柴田修教頭

資 料：

1	令和6年度	第1回学校評議員会	1部
2	令和6年度	あきた型学校評価	1部
3	令和6年度	学校要覧	1部

1 開会

2 評議員の委嘱

3 校長あいさつ

筒井校長より学校評議員の快諾、平素からの本校教育活動への理解・協力への感謝の意を述べる。
また、本校の教育課題への対応についてそれぞれの立場から指導・助言を頂戴したい旨を伝え、挨拶を終える。

4 評議員及び職員の紹介

(出席者から自己紹介)

5 学校経営方針説明（校長）

・教育目標

『豊かな人間性と健やかな身体を育み、工業に関する基礎的な知識・技能・態度を習得し、地域社会に貢献できる人間の育成に努める』としている。

・教育方針

「自己実現」「授業改善」「学力向上」「基礎基本の定着」「キャリア教育の充実」を軸に教職員が専門的な力量と指導技術を向上させるための努力を続けることで、「総合的な人間力」の育成を図りたい。

・重点目標

学習指導の充実、キャリア教育の充実、生徒指導の充実、部活動、生徒会活動を充実させ、地域の要望や生徒の実情に応じた学校作りを推進する。

- ・男鹿地区高校統合計画

今後、両校による合同委員会を設け検討を重ねていく。県教委から今年度末までに骨子案の完成を指示されている。

6 学校状況（教頭）

- ・教職員構成

教職員平均年齢男子55.5歳、女子43.4歳、教諭平均年齢52.5歳。

- ・在籍生徒数

1年生は2年生より8名増。全県的に3年生は出生数が多かった年。

- ・出身中学校

全体的な変化はなし。土崎中は昨年の減から5人の増、男鹿東中は昨年の18人増から2増の20名。その他県外から2名の入学者。

- ・退学者・転学者

昨年度2・3年生退学者各1名。内訳、進路変更。転学2年生2名、1年生1名。

- ・問題行動

昨年度2件2名。

- ・進路状況

就職70%、進学26%。県内就職56%、昨年比減。4年制大学進学7名、内2名国公立大学。試験種別は総合型選抜。

就職

企業説明会、応募前職場見学、面接模擬練習会などを通じた丁寧な指導で希望者全員内定。業種別では、製造業が多く、次いで建設業の順。本校は他校とより建設業への就職者多数。県建設課主催の出前説明会、業界団体との交流会など、専門性をアピールできていることが要因。

進学

工業高校の特色を生かした課題研究などより国公立大学へ合格。課題は第1希望内定・合格率が90%弱。

- ・特別活動

8ページまで昨年度の結果掲載。

9ページ中ほどから今年度全県総体の結果。空手道部女子団体・女子個人1名がインターハイ出場。東北大会には、空手道部男女団体・女子個人、ラグビー部、水泳競技が出場。

各部とも生徒はよく頑張っていたとの顧問の感想多数。

7 あきた型学校評価システム（総務主任）

- ・各分掌・学科・学年部で⑤「目標達成のための方策」まで入力済み。

- ・中間評価が10月、年度末評価が2月、県教育委員会への報告が3月。

- ・中間評価は⑥「具体的な取組状況」、⑦「達成状況」を各分掌・学科・学年部でフィードバック、その後⑧「自己評価」、翌年、評議員に⑨「学校関係者評価と意見」の評価、意見を依頼。

- ・上記を元に⑩「自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策」策定。次年度への橋渡しとする。

8 質疑応答・意見交換・提案

〈質問1〉 県外からの入学生の経緯について。

〈回答〉 家庭の事情による。

〈質問2〉 問題行動の内容について

〈回答〉 自転車の器物損壊による。

〈質問3〉 3年生の就職の希望状況について(県外・県内)

〈回答〉 県内志向に傾いている。

〈質問4〉 P T Aの在り方について

〈回答〉 全国的にもP T Aへの価値観や位置づけが大きく変容している。

〈質問5〉 男鹿地区高校統合校の進捗状況について

〈回答〉 これから両校の合同委員会で検討していくこととなる。

9 校長謝辞

10 閉会